

治療法の説明

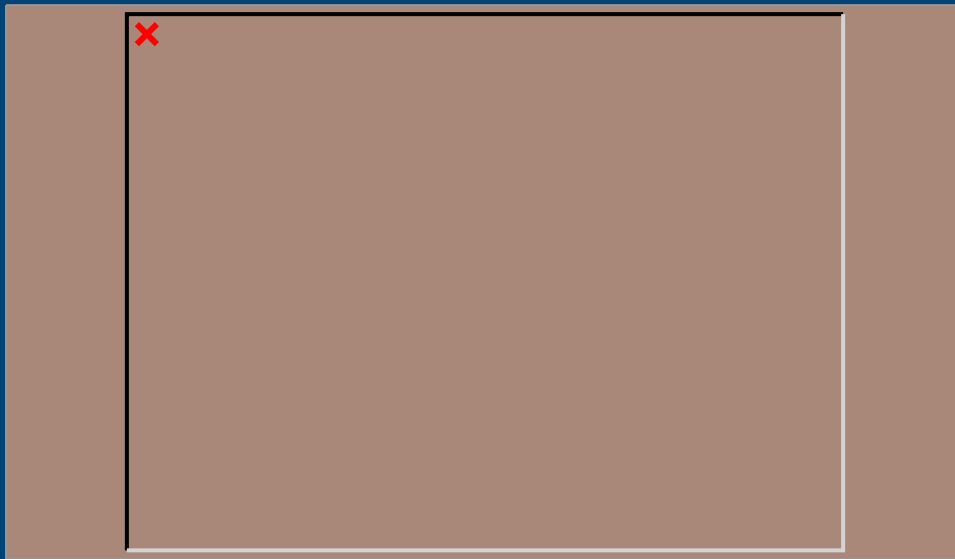
テーピング

テーピングは、関節の支持力を保持する為に使う場合があります。捻挫や怪我の為、関節が正常な動きを失っている場合、それを支持するようにする事で機能を回復させようと言うものです。鍼灸で使われている穴は点としての刺激ですが、テーピングは面としての刺激です。点の刺激より面の刺激がすぐれている場合があります、これも適応診断により決められます。我々が考えている以上に関節の動きは複雑です。例えば足関節の僅かな偏った動きが全身に影響を与えている事があります。これを支持しないと全身の穴としての鍼治療を行っても無効又は治療効果が持続しない事もあり御園治療院におけるテーピング治療は大きな意味を持っています。

テーピングによる関節の支持力向上と全身における穴の刺激を組み合わせる事で持続した痛みを緩解させたり、不定愁訴と言われるような症状を改善させたりします。

テーピング

テーピングをするテープには様々なものがあります、下記のテープは伸縮性のないテープです。



こんなものが何故治療器具になるのでしょうか？

花粉症の症状が瞬時に変わったり、身体のバランスをとったりするのに使われるテープですが、テーピングの刺激で何が変化するのか・・・。

これには色んな考え方があると思います。通常スポーツテーピングのようなテープを行う目的は関節の動く範囲を制限したりする目的で使われることが多いのですが、小さな面積しか貼らないテープが本当に身体のバランスをとるような刺激になるのでしょうか？

例えば、人間の身体が風船だったとお考え下さい。皮膚は風船の一番重要なゴムの部分です。そして内容物には空気が入っています。

そこで風船に多量の空気を送り込むとどうなるのでしょうか？

答は簡単ですね・・・風船が膨れ風船のゴム部分は膨張します、これと同様のことが人間の細胞レベルで変化していると私は考えています、つまり細胞の一つ一つが風船のような形になっていると考えると風船を形づくっている一番重要なゴム部分が人間の身体でいえば皮膚に相当するのです。つまり内圧が高まれば皮膚に何らかの状態の変化が現れてくると考えられるのです。

内圧が高くなると皮膚に変化が現れ、皮膚の情報も変化するので、感覚神経が体表面にあるのはその為で、皮膚の感覚情報を脳に伝える経路があると考えられるのです。だから皮膚には様々な情報がつまっています。話はそれですが、穴はそうした皮膚感覚の集まりやすいところに多く現れていると考えられ、皮膚から脳の中樞神経系へ情報を伝達していると考えられるのです。

その重要な皮膚へテープという身体にとっては異物のものを貼るとその情報は確実に脳の中樞神経系にまで到達します。

例えば、片足立ちで不安定だった方の足の指先に1センチ四方のテープを貼り、その同側の手の指先にも同じようなテープを貼るとその情報が脳の中樞神経に伝えられ、貼る前よりバ

